

保証規定

- 保証期間内に正常な使用状態でご使用の場合に限り品質を保証しております。万一保証期間内で故障がありました場合は、弊社所定の方法で無償修理いたしますので、保証書を製品に添えてお買い上げの販売店までお持ちください。
- 次のような場合は保証期間内でも有償修理になります。
 - 保証書をご提示いただけない場合。
 - 所定の項目をご記入いただけない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 故障の原因が取扱以上の不注意による場合。
 - 故障の原因がお客様による輸送・移動中の衝撃による場合。
 - 天変地異、ならびに公害や異常電圧その他の外部要因による故障及び損傷の場合。
 - 譲渡や中古販売、オークション、転売などでご購入された場合。
- お客様ご自身による改造または修理があったと判断された場合は、保証期間内での修理もお受けいたしかねます。
- 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責を負わないものとします。
- 本製品を使用中に発生したデータやプログラムの消失、または破損についての補償はいたしかねます。
- 本製品は医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器などの人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器やシステムなどへの組み込みや使用は意図されておりません。これらの用途に本製品を使用され、人身事故、社会的障害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。
- 修理ご依頼品を郵送、またはご持参される場合の諸費用は、お客様のご負担となります。
- 保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。

免責

- 本製品の使用中に発生したデータやプログラムの消失についての保証はいたしかねます。
- 本製品のカバーを開けたり、分解したりしないでください。故障の原因となります。
- 本製品を水分や湿気の多い場所、直射日光のあたる場所、ホコリや湯煙などの多い場所、車中や暖房器具のそばなどの高温となる場所に設置したり保管したりしないでください。

保証書

サンワサプライ株式会社

型番: SW-KVM8HU	シリアルナンバー:
お客様・お名前・ご住所・TEL	
販売店名・住所・TEL	
担当者名	保証期間 1年
お買い上げ年月日 年 月 日	

最新の情報はWEBサイトで <https://www.sanwa.co.jp/>



本製品の詳細情報はこちら!

スマホで読み込むだけで簡単にアクセス!



弊社サポートページはこちら!

- サポート情報
 - Q&A(よくある質問)
 - ソフトダウンロード
 - 各種対応表
- など、最新情報を随時更新しています。

ご質問、ご不明な点などがありましたら、ぜひ一度弊社WEBサイトをご覧ください。

本取扱説明書の内容は、予告なしに変更になる場合があります。
最新の情報は、弊社WEBサイト(<https://www.sanwa.co.jp/>)をご覧ください。

サンワサプライ株式会社

ver.1.0

岡山サブライセンター / 〒700-0825 岡山県岡山市北区田町1-10-1 TEL.086-223-3311 FAX.086-223-5123
東京サブライセンター / 〒140-8566 東京都品川区南大井6-5-8 TEL.03-5763-0011 FAX.03-5763-0033
札幌営業所 / 〒060-0808 札幌市北区北八条西4-1-1 (アストラルビル) N8 TEL.011-611-3450 FAX.011-716-8990
仙台営業所 / 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-6-37 TM 仙台ビル TEL.022-257-4638 FAX.022-257-4633
名古屋営業所 / 〒453-0015 名古屋市中村区権町16-7 カシヤマビル TEL.052-453-2031 FAX.052-453-2033
大阪営業所 / 〒592-0003 大阪府淀川区宮原4-5-36 セントラル新大阪ビル TEL.06-5395-5310 FAX.06-5395-5315
福岡営業所 / 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-3 博多八百治ビル TEL.092-471-6721 FAX.092-471-6078

CA/AI/KTD&A



SW-KVM8HU

HDMI対応パソコン自動切替器 (8:1) 取扱説明書



この度は、HDMI対応パソコン自動切替器(8:1)「**SW-KVM8HU**」(以下本製品)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。この取扱説明書では、本製品の使用方法や安全にお取扱いいただくための注意事項を記載しています。ご使用前によくご覧ください。読み終わったあとこの取扱説明書は大切に保管してください。

最初にご確認ください

お使いになる前に、セット内容がすべて揃っているかご確認ください。
万一、足りないものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

セット内容

- | | | | |
|---------------------------|------|--------------------|-----|
| ①切替器 | 1台 | ⑥グラウンド線(接地線) | 1本 |
| ②ACアダプタ | 1個 | ⑦ゴム足 | 4個 |
| ③電源ケーブル | 1本 | ⑧ラック固定用ネジナット・ワッシャー | 各4個 |
| ④パソコン接続ケーブル(1.8m) | 2本 | ⑨取扱説明書・保証書(本書) | 1部 |
| ⑤ラックマウントキット(ブラケット×2、ネジ×6) | 1セット | | |

※欠品や破損があった場合は、品番(SW-KVM8HU)と上記の番号(①～⑨)と名称(ゴム足など)をお知らせください。

本取扱説明書の内容は、予告なしに変更になる場合があります。
最新の情報は、弊社WEBサイト(<https://www.sanwa.co.jp/>)をご覧ください。

デザイン及び仕様については改良のため予告なしに変更することがあります。
本書に記載の社名及び製品名は各社の商標又は登録商標です。

サンワサプライ株式会社

目次

■安全にお使いいただくためのご注意	3
・注意	3
・お手入れについて	3
■取扱い上のご注意	3
■本書について	3
■本書の表記について	3
■本製品の特長	4
■必要なハードウェア環境	4
・対応パソコン	4
・対応OS	4
・KVMケーブル	4
■各部の名称・説明	5
■ハードウェアのセットアップ	7
・卓上設置	7
・ラックマウント	7
・デバイスの接地（アース）	8
・単体構成	8
・前面ケーブル接続図	8
・背面ケーブル接続図	9
・2段階カスケード接続のセットアップ	10
・3段階カスケード接続のセットアップ	12
・マルチディスプレイ機能	14
・チャンネル（ポートのグループ化）	16
■基本操作	18
・ホットプラグ	18
・ポート選択	18
・ポートID番号	18
・電源オフ、再起動	18
■ホットキー操作によるポート選択	19
・ホットキーモードの起動	19
・アクティブポートの選択	20
・オートスキャンモード	20
・スキップモード	21
・パソコンのキーボード/マウスのリセット	21
・ホットキーによるビーブ音の切替え	21
・ホットキーモードの起動キー切替え	22
・OSDホットキーの切替え	22
・ポートOSの変更	22
・デフォルト値のリストア	22
・ビデオダイナミック	22
・マウスエミュレーションコントロール	22
・ホットキー一覧表	23
■OSD操作	24
・OSDへのログイン	24
・OSDホットキー	24
・OSDメイン画面	24
・OSDメイン画面の項目	25
・OSDナビゲーション	25
・OSDファンクション	25
・F1：GOTO	26
・F2：LIST	26
・F3：SET	27
・F4：ADM	29
・F5：SKP	31
・F6：BRC	32
・F7：SCAN	32
・F8：LOUT	32
■Macキーボードエミュレーション	33
■付録	34
・アドミニストレーター権限のログインができなくなった場合	34
■仕様	35
■保証規定	36

安全にお使いいただくためのご注意(必ずお守りください)

- 注意：下記の事項を守らないと事故や他の機器に損害を与えたりすることがあります。
 - 取付け・取外しの時は慎重に作業を行ってください。(機器の故障の原因となります)
 - 次のような場所では使用しないでください。
 - (1)直射日光の当たる場所
 - (2)湿気や水分のある場所
 - (3)傾斜のある不安定な場所
 - (4)静電気の発生する場所
 - (5)通常の生活環境とは大きく異なる場所
 - 長時間の使用後は高温になっております。取扱いにはご注意ください。(火傷の恐れがあります)
- お手入れについて
 - (1)清掃するときは電源を必ずお切りください。
 - (2)機器は柔らかい布で拭いてください。
 - (3)シンナー・ベンジン・ワックス等は使わないでください。

取扱い上のご注意

本製品を使用してパソコンを切替えて使用する際は、万が一に備えてデータのバックアップをこまめにすることをお勧めします。(切替え時の不具合によるハングアップ、ケーブル抜け等)

本書について

この取扱説明書では**SW-KVM8HU**の取付けや配置方法、操作方法について説明しています。本書の構成については下記をご覧ください。

- はじめに …… 本製品の特長や機能の紹介、またフロント・バックパネルについて説明します。
- 導入 …… 本製品の接続や設定方法などについて説明します。
- ホットキー操作 …… 本製品のホットキー操作について説明します。
- OSD操作 …… 本製品のOSD(オンスクリーンディスプレイ)詳細および操作方法について説明します。
- 付録 …… 本製品についての技術情報およびその他の重要事項についてまとめてあります。

本書の表記について

[]	入力するキーを示します。例えば【Enter】はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、【Num Lock】+【+】のように「+」を表記してあります。同時ではなく順番に押す場合は、【K】→【Enter】のように「→」を表記してあります。
①	番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
●	●印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
⚠	重要な情報を示しています。

本製品の特長

- 1組のコンソール(キーボード・マウス・ディスプレイ)で8台までのパソコンを切替えて操作できます。
- HDMIディスプレイは最大解像度1920×1200(WUXGA)、1920×1080(フルHD)に対応し、ワイド画面出力にも対応します。
- ディスプレイエミュレーション機能(EDID読み出し回路)を搭載。ディスプレイのEDIDを読み込みKVMに保存、DDC通信時に各ポートへ応答することで裏起動時に画面解像度が変わる、画面サイズが変わるという問題が発生しません。
- USB2.0ハブを2ポート搭載しており、USBメモリなど各種USBデバイスを切替えて共有することができます。
- KVM、USB2.0ハブ、オーディオの独立切替が可能です。
- キーボードポートをエミュレーションしているため、再起動(リブート)時にポートを切替えなくても完全起動が可能です。
- ソフトウェアのインストール不要で、接続するだけで全ての機能を使用することができます。
- 19インチサーバーラックに取付け可能(1Uサイズ)です。取付け用金具付属しています。
- 切替方法は前面パネルでのボタン切替、キー入力によるホットキー切替、OSD画面による切替操作が可能です。
- 一定時間間隔で自動的にポートを切替えるオートスキャンモードを搭載しています。パソコン動作状況の確認などに最適です。
- 使用するユーザーレベルで、操作できるOSD画面を制限したり、コンソールから全てのパソコンを同時にシャットダウンさせるブロードキャスト機能、2レベルパスワードセキュリティ機能などシステム管理に便利な多機能OSDを搭載しています。
- Windows OS、Mac OS、Linuxに対応。複数のOSが混在した環境でも使用できます。
- ※カーネルのバージョン・ディストリビューションの仕様により使用できない場合があります。
- 3段階までのカスケード接続に対応。最大512台のパソコンを1組のコンソールでコントロールすることができます。

※1:本製品にはパソコンとの接続ケーブルが2本付属しています。3台以上のパソコンを接続する際は別途パソコン自動切替器用ケーブル(品番:SW-KHU180)をご購入ください。

必要なハードウェア環境

■対応パソコン

Windows搭載(DOS/V)パソコン、Apple Macシリーズ
(USB Aコネクタ メス、HDMI出力を持つ機種※1)

■対応OS

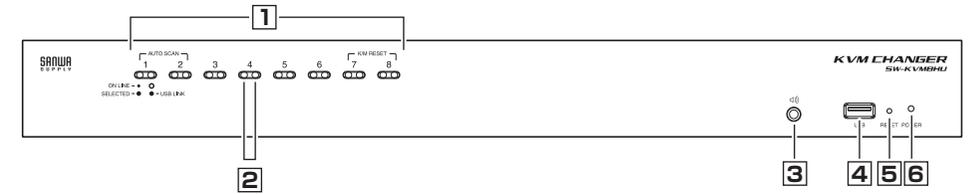
Windows 10・8.1・8・7・Vista・XP(32/64bit,各Editon対応)
Windows Server 2019・2016・2012(R2)
Windows Server 2008(R2)・Windows Server 2003(R2)
macOS 10.12~10.15、Mac OS X 10.6~10.11以降
Linux(CentOS、uBuntu、OpenSUSE)

■KVMケーブル

製品画像	機能	品番(長さ)
	HDMI:HDMI(タイプA) オス-オス USB:USB2.0Aオス- USB2.0Bオス	SW-KHU180(1.8m)

各部の名称・説明

SW-KVM8HU フロントパネル



1 ポート選択ボタン

手動でポート選択をするためのボタンです。

- ポート選択ボタンを短押し(2秒以下)することで、KVM・USB HUB・オーディオを当該ポートに切替えることができます。
- ポート選択ボタンを長押し(2秒以上)することで、KVMとオーディオを当該ポートに切替えることができます。
- ポート1とポート2を同時押し(2秒)することで、オートスキャンモードを起動することができます。
※オートスキャンモードについてはP20参照。
- ポート7とポート8を同時押し(2秒)することで、キーボード/マウスをリセットすることができます。
※キーボード/マウスリセットについてはP21参照。

2 ポートLED

ポートLEDは対応するコンピューターポートの状態を示します。各ポートに2個のLEDがあり、左側がKVMポート選択LED、右側がUSBポート選択LEDです。

KVMポートLED

- 暗いオレンジ色に点灯: 対応するポートに接続されたパソコンの電源がONで稼働中(ON LINE)
- 明るいオレンジ色に点灯: 対応するポートに接続されたパソコンがKVMによって選択されている (Selected)
- 点滅: 当該ポートにオートスキャンモードでアクセス中

USBポートLED

- 緑色に点灯: USBハブポートが対応するポートにアクセス中

3 オーディオポート

メインで使用するスピーカーをこのポートに接続してください。

リアパネル側のオーディオポートにもスピーカーが接続されている場合はこちらの前面パネル側のポートが優先されます。

4 USB2.0ハブポート

USB 2.0 周辺機器(プリンター、スキャナー、etc)をこのハブポートに接続することができます。(機器には別途アダプタで電源供給が必要となる場合があります)

注: USB 2.0ハブは2段目、3段目にカスケード接続されたKVM上のパソコンからはアクセスできません。

5 リセットボタン

リセットボタンを押すことで機器をリセットできます。機器がリセットされるとビープ音になり、リセットが完了するまでポートLEDが点滅します。

リセットが完全に終了した後再ログインが可能となります。

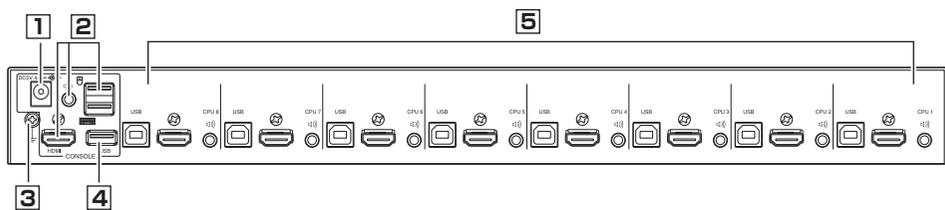
注: このスイッチはクリップの先など先の細い物を使用して押してください。

6 電源LED

電源LEDが点灯しているときは、電源がONで操作可能であることを示します。

各部の名称・説明(続き)

SW-KVM8HU バックパネル



1 電源ジャック

ACアダプタはこちらに接続してください。

2 コンソールポート

HDMIモニター、USBキーボード、USBマウス及びスピーカーをケースに表示されている通りの位置に接続してください。

3 アースターミナル

アース線はこちらに接続してください。

4 USB2.0ハブ

USB 2.0 周辺機器(プリンター、スキャナー、etc)をこのハブポートに接続することができます。

(機器には別途アダプタで電源供給が必要となる場合があります)

注: USB 2.0ハブは2段目、3段目にカスケード接続されたKVM上のパソコンからはアクセスできません。

5 KVMポート

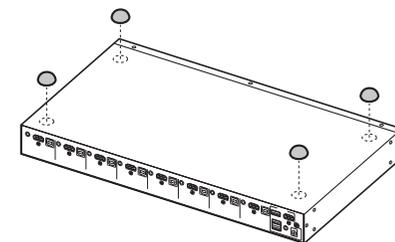
パソコンとの接続に使用するパソコン接続用ケーブルはこちらに接続してください。

それぞれのポートに、HDMIコネクタ、USBタイプBコネクタ、オーディオジャックが配置されています。

ハードウェアのセットアップ

■ 卓上設置

本製品は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をさえぎるものやスイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。本製品を水平な場所に置く際には、付属ゴム足の裏面のはくり紙をはがし、右の図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。

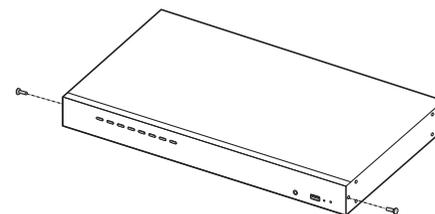


■ ラックマウント

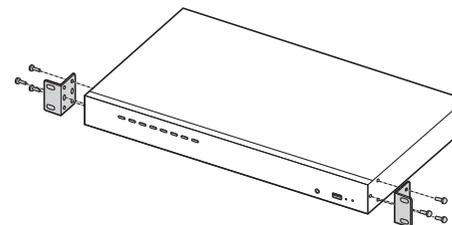
● フロント側へのマウント

① 下記の図のように、側面のフロント側についているネジ(左右各1箇所)をはずしてください。

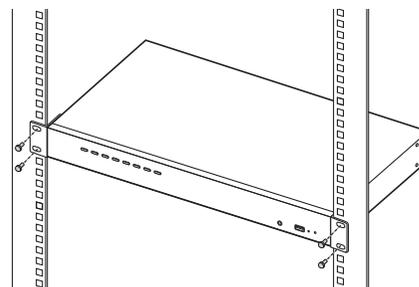
※ 取外したネジはマウント取付けには使用しません。(別途保管してください)



② 付属のラックマウントキットを下記の図のように本製品フロント側に取付けてください。



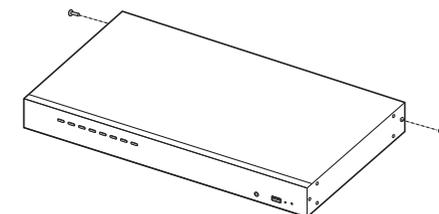
③ 金具を取付けた本製品を、ラックのフロント側の任意の位置にネジ止めしてください。



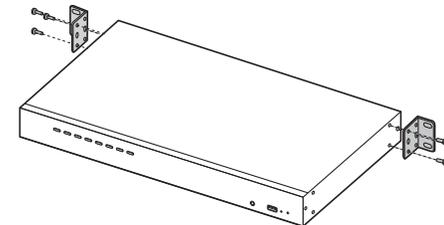
● リア側へのマウント

① 下記の図のように、側面のリア側についているネジ(左右各1箇所)をはずしてください。

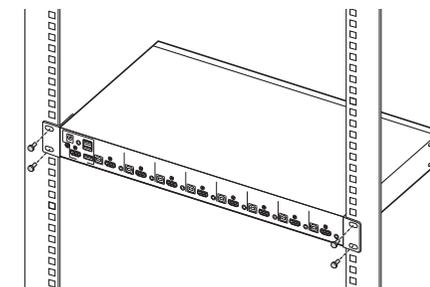
※ 取外したネジはマウント取付けには使用しません。(別途保管してください)



② 付属のラックマウントキットを下記の図のように本製品リア側に取付けてください。



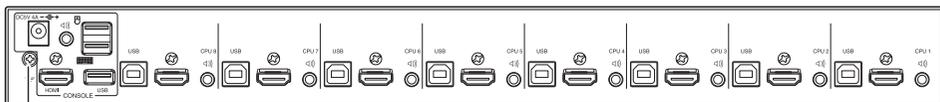
③ 金具を取付けた本製品を、ラックのリア側の任意の位置にネジ止めしてください。



ハードウェアのセットアップ (続き)

■デバイスの接地(アース)

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。付属のグラウンド線の一端を接地ターミナルに、もう一端を適切な接地端子にそれぞれ接続して本製品を接地してください。



接地ターミナル

■単体構成

製品を1台で使用する場合は、図を参照し、下記の順序でセットアップを行ってください。

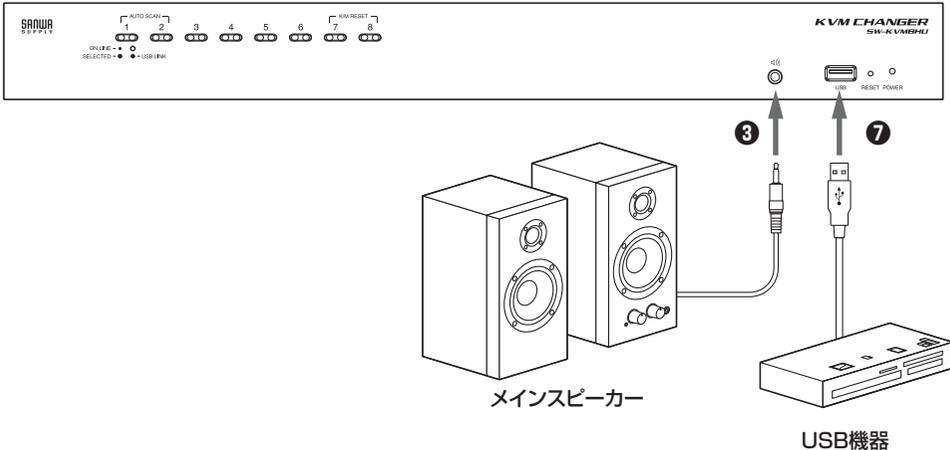
- ① USBキーボード及びUSBマウスを本体背面のコンソールポートに接続してください。
- ② HDMIモニターをHDMIコンソールポートに接続し電源をONにしてください。
- ③ メインで使用するスピーカーをフロントパネル側のスピーカージャックに接続してください。フロント/リア両方に接続した場合はフロント側のスピーカージャックに優先出力されます。
- ④ サブで使用するスピーカーをリア側のスピーカージャックに接続してください。
- ⑤ 付属のパソコン接続用ケーブルのHDMIケーブルをKVMの使用したいポートに接続します。次にUSB及びオーディオジャックを同じポートのUSBコネクタ、スピーカージャックに接続します。

注1. 全てのプラグが同一ポート上に接続されていることを確認してください。(全てPort 1、Port 2、など)
注2. SW-KVM8HUはスピーカーコネクタ(緑色)のみを 사용합니다。マイクケーブル(ピンク)をスピーカーポートに接続しないように注意してください。

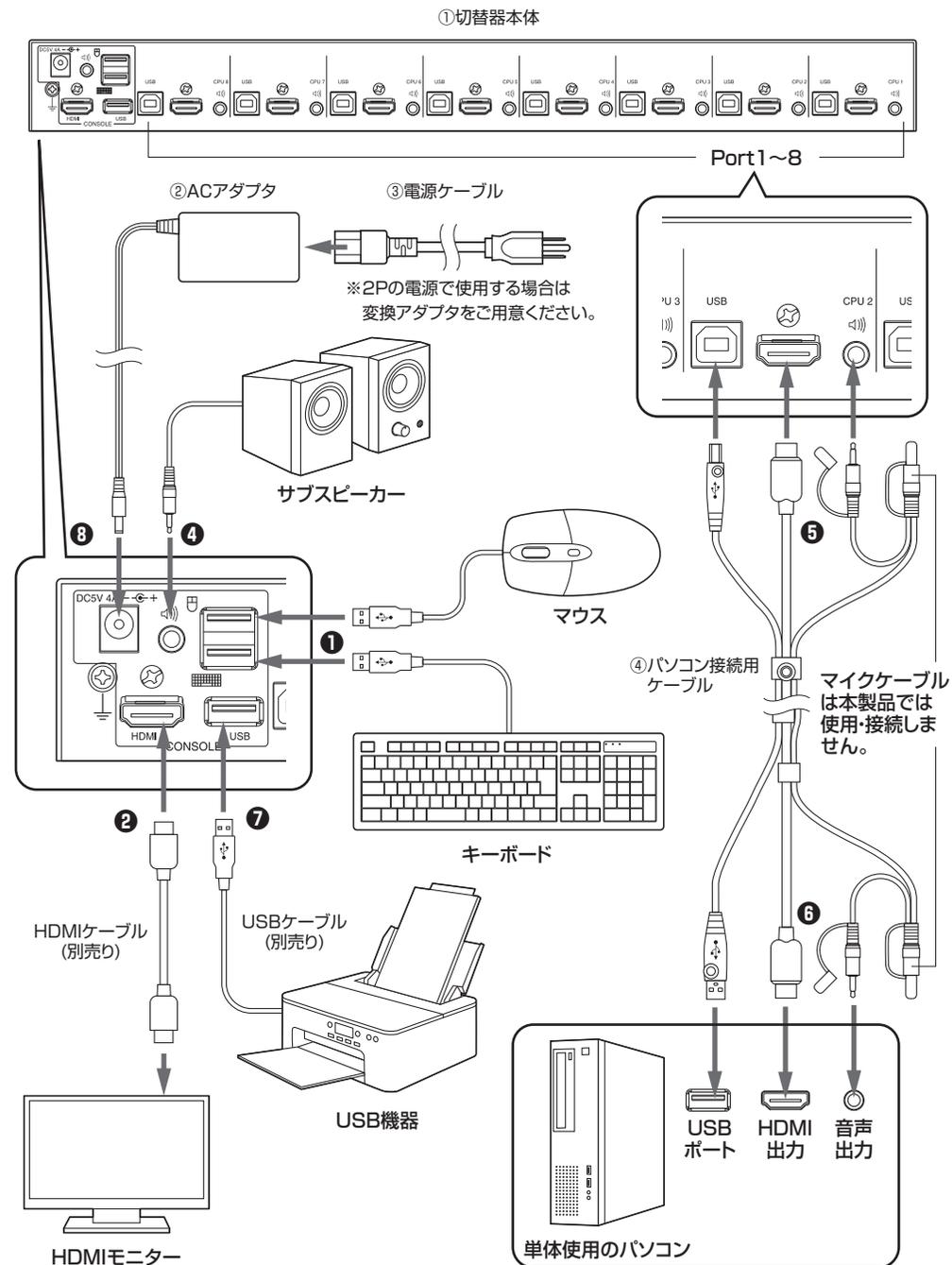
- ⑥ 付属のパソコン接続用ケーブルのもう一方をパソコンに接続します。
- ⑦ USB機器をUSBハブポートのUSB TypeAコネクタに接続します。
- ⑧ 電源ケーブルをACアダプタに差し込み、コンセントプラグをAC電源に接続し、DCプラグを本製品の電源ジャックに接続してください。
- ⑨ 本製品に接続されているパソコンの電源を入れてください。

※注: 全ての機器が適切に接地されていることを確認の上配線を行ってください。

■前面ケーブル接続図



■背面ケーブル接続図



ハードウェアのセットアップ (続き)

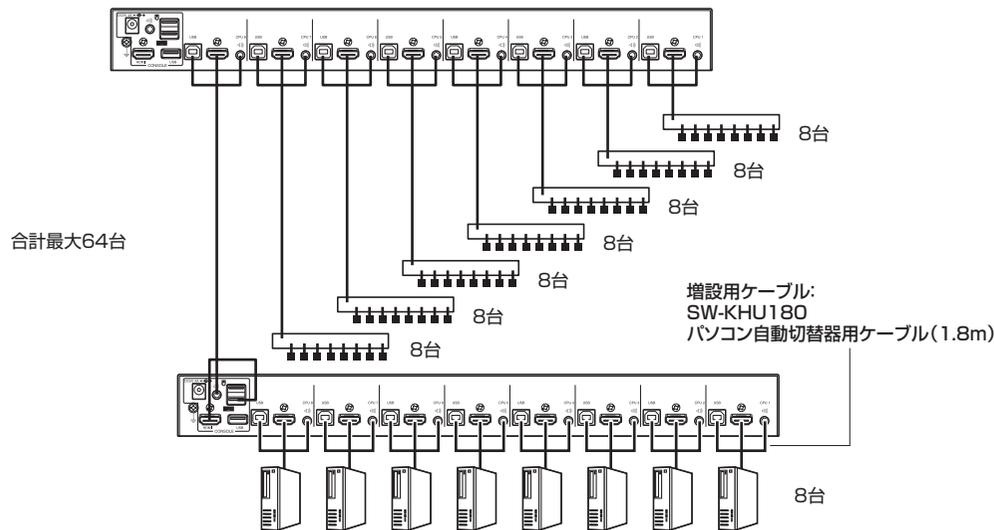
■2段階カスケード接続のセットアップ

操作したいパソコンの台数が本製品のポート数を超える場合でも、2段階カスケード接続をすることで64台のパソコンまで拡張して操作することが可能です。

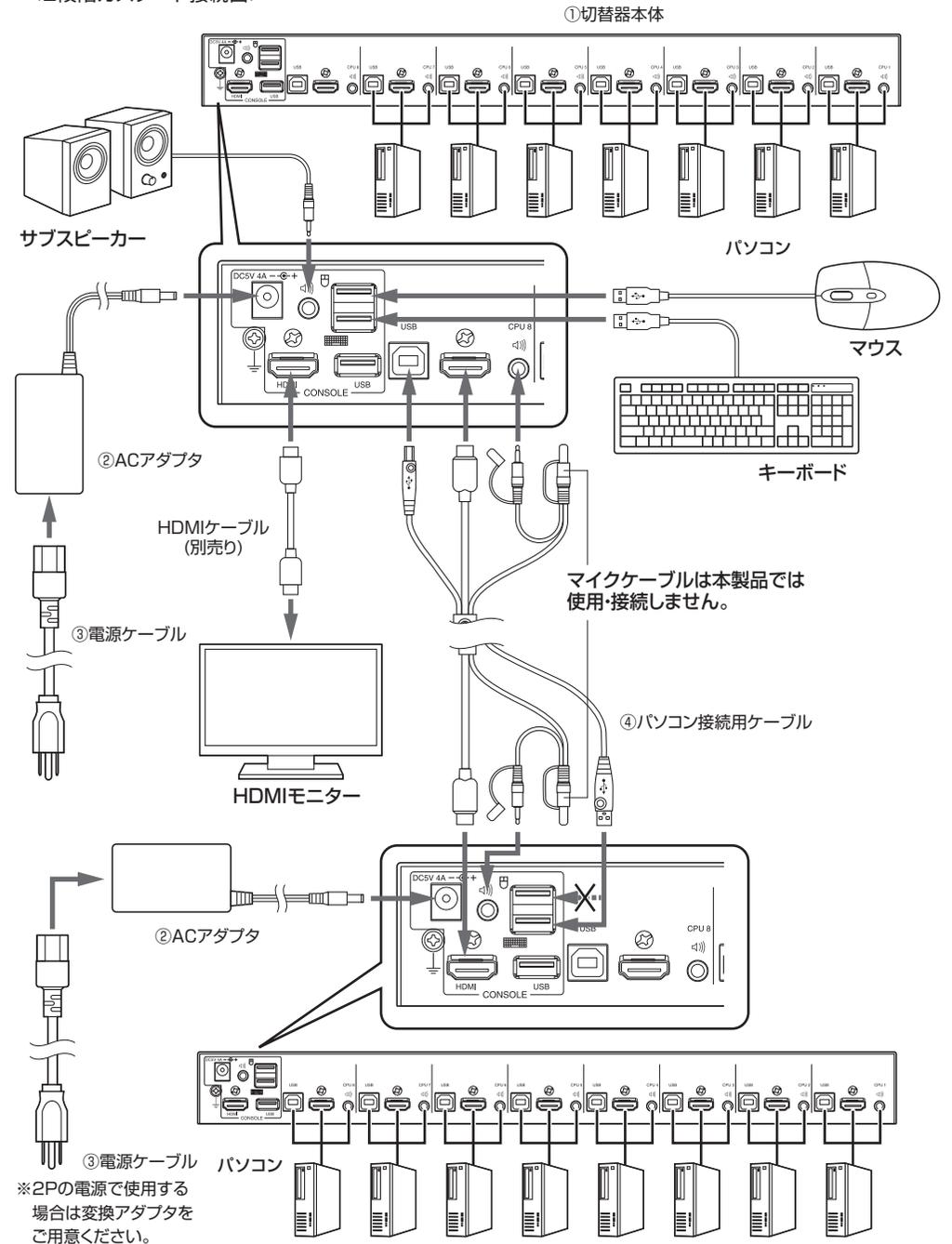
2段階カスケードについては次頁の図を参照して、下記の順序で作業を行なってください。

1. 接続しようとする全ての機器の電源がOFFになっていることを確認してください。
2. 付属のパソコン接続用ケーブルを1段目に使用する本製品のKVMポートと2段目に使用する本製品のコンソールポートに接続してください。
注1: USB TypeAコネクタはコンソールポートの下側のUSBポート(キーボードポート)に接続してください。
3. もう一本のパソコン接続用ケーブルを使用し、2段目に使用する本製品のリアパネルのKVMポートとパソコンのHDMIディスプレイポート、USBポート、オーディオポートを接続してください。
注2. 全てのプラグが同一ポート上に接続されていることを確認してください。(全てPort 1、Port 2、など)
注3. SW-KVM8HUはスピーカーコネクタのみを使います。マイクケーブルをスピーカーポートに接続しないように注意してください。
4. 他のポートもカスケードする場合は上記手順を繰り返してください。
5. 2段目に使用する本製品に電源を供給してください。
6. 1段目に使用する本製品に電源を供給してください。
7. 本製品に接続されているパソコンの電源を入れてください。
注1: 電源投入の順序は、カスケード2段目に接続している本製品の電源から先に投入してください。
2段目に接続されているKVM電源を全てONにした後に1段目のKVMをONにしてください。
この順序ですべてのKVMスイッチに電源を投入後、最後にパソコンの電源をONにしてください。
注2: USB2.0ハブは、2段目、3段目にカスケードされた本製品に接続されたパソコンからはアクセスできません。

<2段階カスケード接続の最大接続例 (SW-KVM8HU 9台使用)>



<2段階カスケード接続図>



ハードウェアのセットアップ (続き)

■3段階カスケード接続のセットアップ

3段階カスケードのインストール方法は基本的に2段階カスケードと同様になります。
SW-KVM8HUを3段階カスケード設置することによって、最大512台までのパソコンをコントロールできるようになります。

注1: SW-KVM8HUは3段階を超えるカスケードはできません。

2段階カスケードの方法と同様に配線を行なった後、下記の順序で電源の投入を行ってください。

- 1 まず最初に、3段目に接続されている本製品にACアダプタを接続し、電源を入れてください。
- 2 次に、2段目に接続されている本製品にACアダプタを接続し、電源を入れてください。
- 3 最後に1段目の本製品にACアダプタを接続し電源を入れます。
- 4 全ての本製品に電源が入ったら、接続されているパソコンの電源を入れてください。

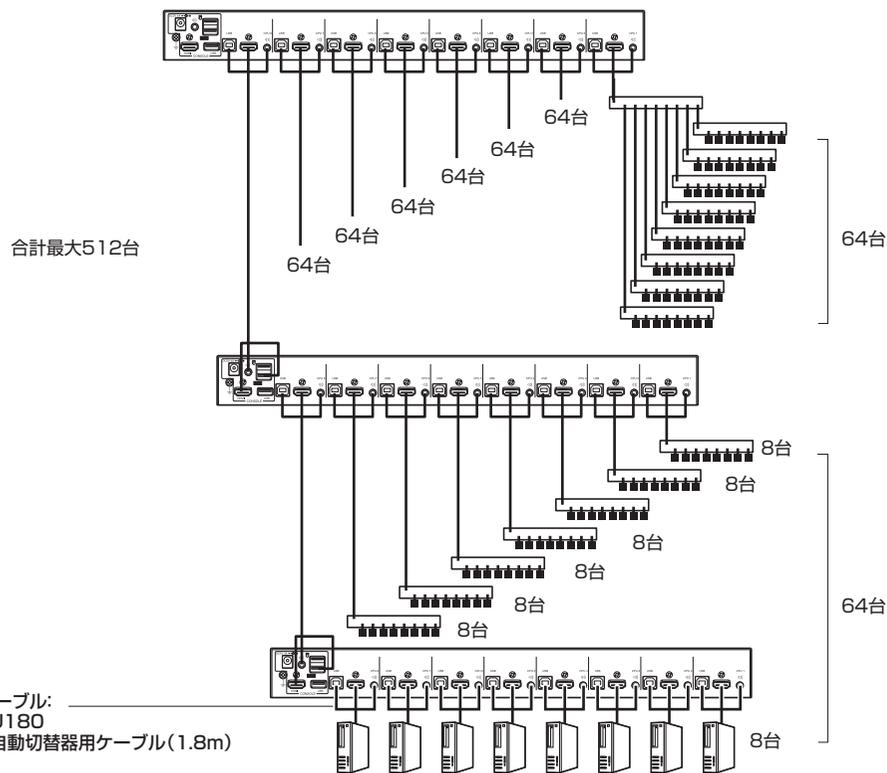
注2:カスケードされた本製品に電源を入れる順序は、3段目→2段目→1段目の順番で行なってください。

全ての本製品に電源を入れ終わってから、パソコンの電源を投入します。

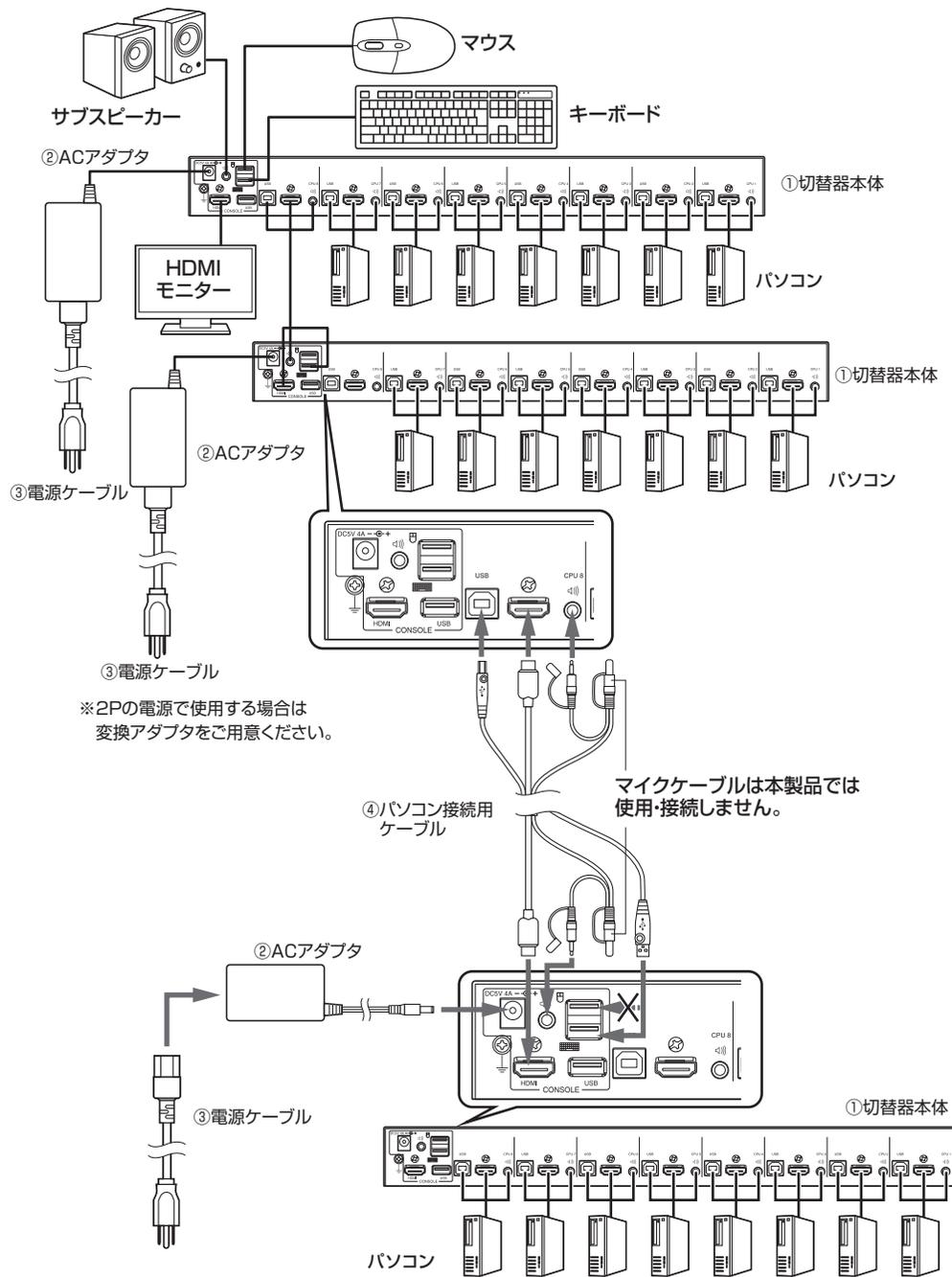
注3:2段目、3段目にカスケードされた本製品からはUSB 2.0ハブポートへのアクセスはできません。

注4:接続する全てのパソコン及びデバイスが適切に接地されていることを確認してください。

<3段階カスケード接続の最大接続例 (SW-KVM8HU 73台使用) >



<3段階カスケード接続図>



ハードウェアのセットアップ (続き)

■マルチディスプレイ機能

SW-KVM8HUは最大8台までのモニターを接続しデュアル(dual)/トリプル(triple)/クアッドディスプレイ(quad-display)/マルチディスプレイ(multi-display)出力のパソコンの切替を行なうことができます。(パソコン切替台数は最大7台)

マルチディスプレイ機能を使用する際の接続方法は前述のカスケード接続とは異なります。

マルチディスプレイのセットアップ

マルチディスプレイの配線方法については次頁の図を参照し、下記の順序で作業を行なってください。

1. 市販のUSB Type A(オス)-to-USB Type B(オス)ケーブルを利用し1台目の本製品の8番ポート(Port 8)のUSB TypeBポート(メス)と、2台目の本製品のコンソールポート上のキーボードポートまたはマウスポートのUSB TypeAポート(メス)を接続します。

注: 8番ポート(Port 8)はマルチディスプレイ接続用に使用しますので、パソコンを接続できるポートはPort 1からPort 7までの7ポートになります。従ってマルチディスプレイ使用時に切替できるパソコンの台数は最大7台となります。

2. 市販のHDMIケーブルを用いて2台目の本製品のHDMI出力ポートとパソコンのビデオカードのHDMI出力ポート(2台目のモニターに出力するポート)を接続します。

注: 2台目以降の本製品のKVMポート(Port 1~Port 7)にはHDMIケーブルのみを接続します。(USB、オーディオジャックには配線しません)

3. 2台目の本製品のコンソールポートにモニターを接続します。

4. マルチディスプレイのモニターを追加する場合は、1-3の手順を同様に行ないます。

最大8台目まで接続することができます。

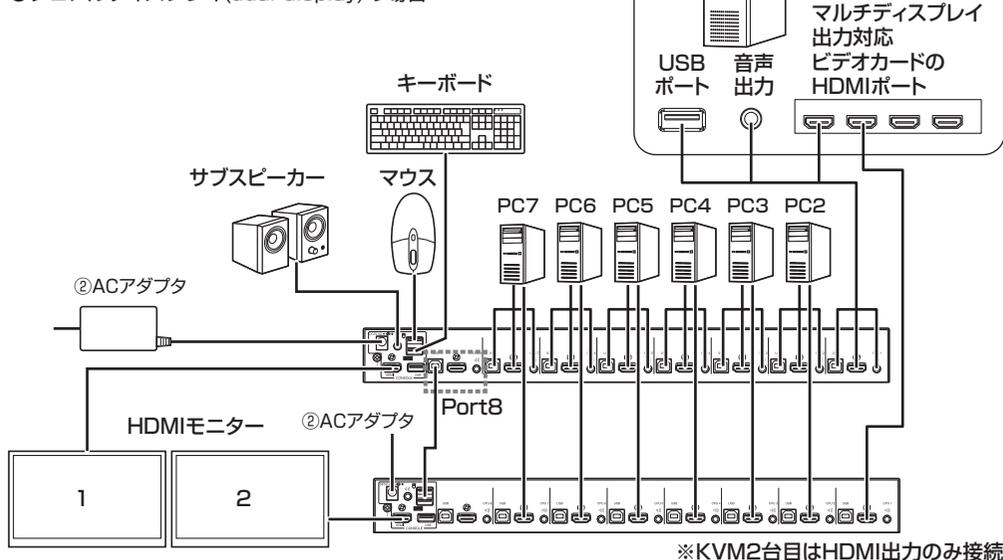
5. 1台目の本製品にモニター、オーディオ、USB機器等を接続します。配線の方法は単体構成時の接続方法及び次頁の図をご参照ください。

6. 本製品の電源を一台目から順に入れ、最後にパソコンの電源を入れてください。

注: 配線時には本製品及び接続されている機器が適切に接地されていることを確認してください。

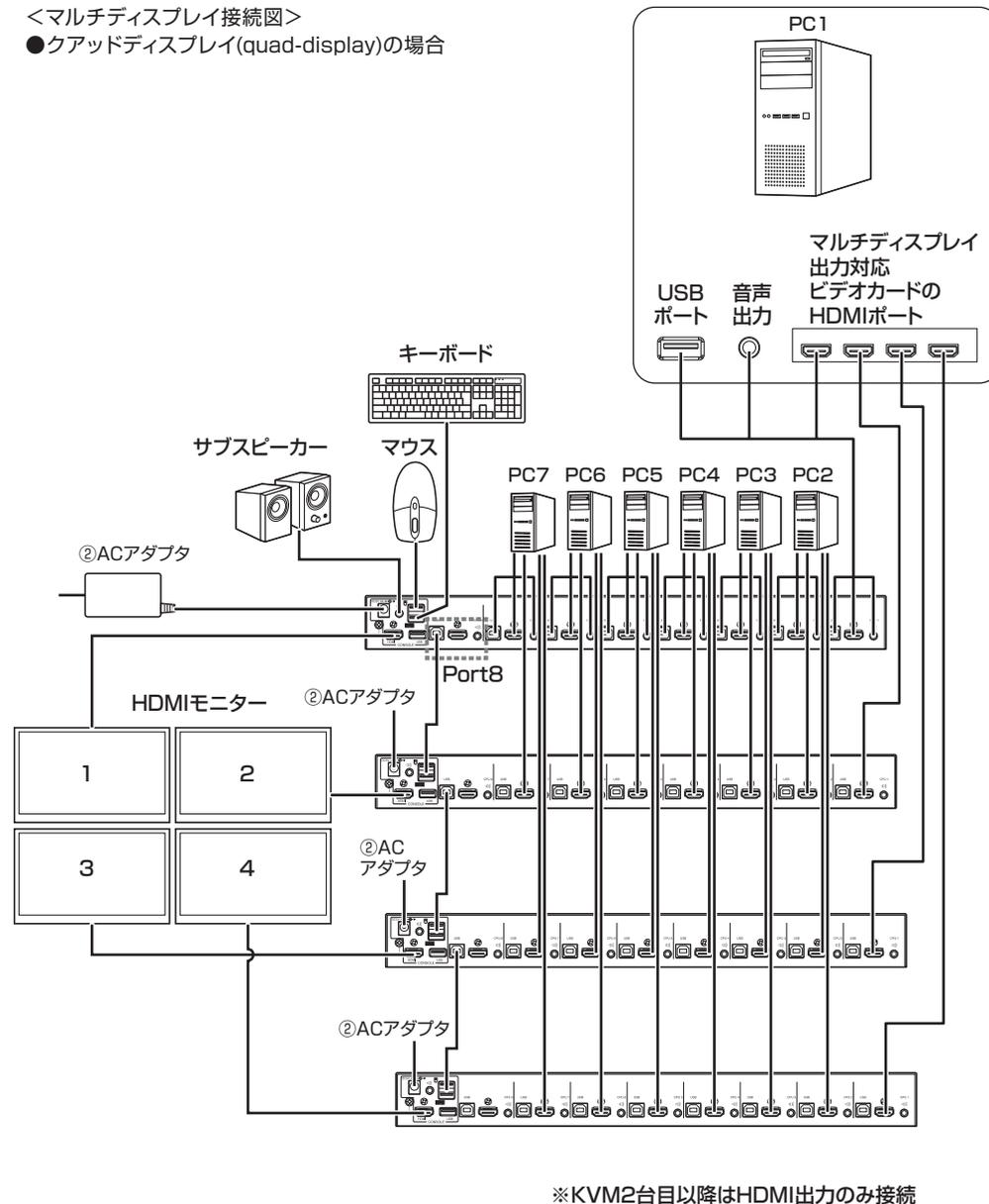
<マルチディスプレイ接続図>

●デュアルディスプレイ(dual-display)の場合



<マルチディスプレイ接続図>

●クアッドディスプレイ(quad-display)の場合



ハードウェアのセットアップ (続き)

■チャンネル(ポートのグループ化)

配線を完了し、OSD上で「マルチディスプレイモード」を選択すると、接続された本製品はそれぞれ自動的にチャンネルとマルチディスプレイモードの検出を行ないます。

ポート番号がチャンネル番号として割り当てられます (チャンネルは右図の縦列のようになります) 即ち、全ての本製品のポート1がチャンネル1に、ポート2がチャンネル2、ポート7がチャンネル7に割り当てられます。

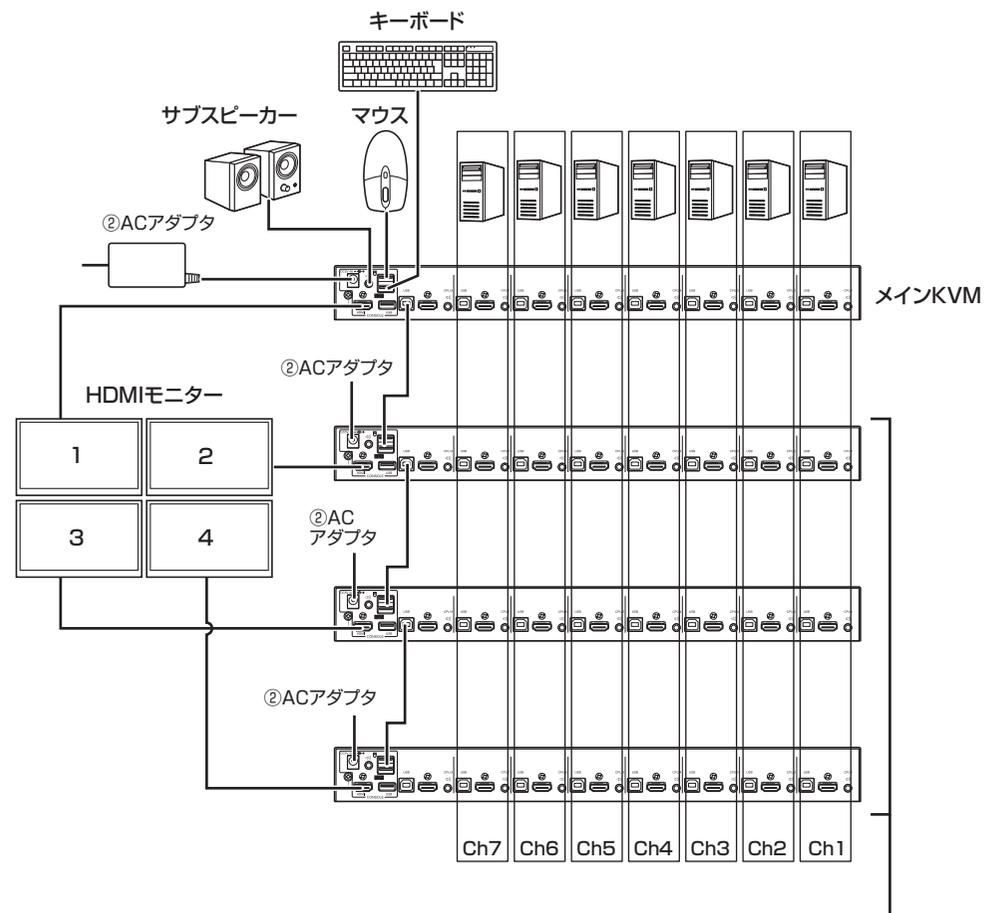
チャンネルを切替えた際には全ての本製品上のポートが同時に切替わります。

本製品を接続する段数(台数)によって、デュアルディスプレイ (2画面)、トリプルディスプレイ(3画面)、クアッドディスプレイ (4画面)もしくはそれ以上のマルチディスプレイ(8画面まで)としての使い方ができます。

参考として4段接続クアッドディスプレイの場合を図示します。

<マルチディスプレイ接続図>

●クアッドディスプレイ (quad-display) の場合



※KVM2台目以降は、メインKVMのポート切替えに連動して切り替わります。

基本操作

■ホットプラグ

本製品はホットプラグに対応しているため、コンポーネントの追加や取外しの際にシャットダウンをする必要はありません。ホットプラグ機能が適切に動作するように、ケーブルの接続作業は以下の手順に従ってください。

●KVMポートのホットプラグ

KVMポートに接続したパソコンの位置変更を行った場合は、手でOSDメニューのポート情報を変更する必要があります。詳細についてはF3:SETおよびF4:ADMの関係する項目をご参照ください。

※注意:接続するパソコンのOSがホットプラグに対応していない場合、この機能は適切に動作しません。

●コンソールポートのホットプラグ

キーボード、マウス、ディスプレイポートはすべてホットプラグに対応しています。ただし、マウスについてのみ、以下の点に注意してください。

- 同じ機種のマウスについては、自由にホットプラグを行うことができます。
- 異なる機種のマウスを接続する場合は、すべての接続されたパソコンを10秒以上シャットダウンし、再起動する必要があります。再起動時の電源投入の順序は2段カスケードの説明の項目をご参照ください。

※注意:万が一ホットプラグ後にキーボード・マウスが反応しなくなった場合、前面パネルのポート7、ポート8ボタンの同時押しでキーボード・マウスのリセットを行ってください。

■ポート選択

本製品は手動切替、OSD(on-screen display)メニュー上での切替、ホットキーによる切替の3つの方法でポート選択をすることができます。

●手動によるポート選択

製品フロントパネルにあるポート選択ボタンを使って手動でポートを切替えてください。

■ポートID番号

本製品のKVMポートにはそれぞれ固有のポートIDが割り振られます。OSDやホットキーでポートIDを指定することによって目的のパソコンへダイレクトに切替えることができます。

●本製品を1台で使用もしくはカスケード接続時の1段目で使用する場合、KVMポートのポートIDは2桁の数字で表されます。(01から08)

●2段目以降の本製品のKVMポートIDは4桁の番号で表されます。前の2桁は1段目のKVMポートのポートナンバーを、後ろの2桁は2段目のKVMポートのポートナンバーをそれぞれ表します。例えば、[02-08]というポートIDは2段目のKVMが1段目のKVMの2番ポートに接続されており、パソコンがその2段目のKVMの8番ポートに接続されていることを表しています。

■電源OFF、再起動

本製品の電源をOFFにする必要がある場合、再起動する前に下記の手順に従ってください。

1. 本製品のACアダプタを抜いてください。
2. 本製品に接続されている全てのパソコンをシャットダウンしてください。
3. 10秒以上の間隔をあけてから本製品にACアダプタを接続してください。
4. パソコンの電源を入れてください。

※注意: もし本製品をカスケードして使用している場合は、カスケードされている全ての本製品と接続されているパソコンの電源をシャットダウンしてください。

ホットキー操作によるポート選択

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切替えることができます。本製品には以下のような操作ができます。

- アクティブポートの選択
- オートスキャンモードによる切替え操作
- スキップモードによる切替え操作
- パソコンのキーボードおよびマウスのリセット
- マウスエミュレーションのON/OFF

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ビープ音の設定
- クイックホットキーの設定
- OSDホットキーの設定
- ポートOSの設定
- OSDデフォルト値のリストア

■ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードの起動には2通りあります。

●[Num Lock]キーと[-]キーでホットキーモードを起動する場合(初期設定)

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーを離してください。

以降、このキー操作は[Num Lock] + [-]と表記します。

●[Ctrl]キーと[F12]キーでホットキーモードを起動する場合(クイックホットキーで設定変更後、利用可能)

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーを離してください。

以降、このキー操作は[Ctrl] + [F12]と表記します。

ホットキーモードが有効になっている場合、本製品には以下の動作が見られます。

※ディスプレイに、青い背景に白い文字で「ホットキー:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。

※通常のキーボード、マウスの各入力には中断され、ホットキーとして割り当てられているキー入力のみ可能です。(数字入力にテンキーは使用できません)

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■アクティブポートの選択

各ポートには固有のポートIDが割り当てられます。(P.18参照)ホットキーでこのポートIDを指定することで、本製品に接続されているパソコンに直接切替えることができます。ホットキーを使ってポートを切替える場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.ポートIDを入力してください。入力したポートIDは画面上に表示されます。
入力を誤った場合は[Backspace]キーを使って消してください。
- 3.[Enter]キーを押してください。[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポートIDのパソコンが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

※ホットキーモードで無効なポートID番号が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるまで、また、ホットキーモードを終了するまで表示されたままになります。

■オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN/SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切替えます。詳細についてはP.28の「SCAN/SKIP MODE」をご参照ください。

●オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[A]キーを押してから[Enter]キーを押してください。
※オートスキャンモードの実行中に、[P]キーを押すかマウスの左クリックをすると、特定のパソコンでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「Auto Scan : Paused」という文字が表示されます。
※オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回一時停止したポートからスキャンを続行しますので、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、オートスキャンモードを終了するよりも、スキャンの一時停止機能を利用したほうが便利です。
※オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押してください。スキャンが停止していた位置から再開します。
※オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。
- 3.オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

■スキップモード

この機能を利用すると、パソコンを手動で切替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、選択したポートを時間の制限にしばられることなく、好きなだけポートを選択しておくことができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.ポート切替の操作に割り当てられたカーソルキーを押してください。
※カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。(アクセスポートに関する詳細はP.28「SCAN/SKIP MODE」を参照)
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
↑	1つ前のアクセス可能なポートにスキップします。1つ前のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートになる場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最後のポートへスキップします。
↓	1つ後のアクセス可能なポートにスキップします。1つ後のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートである場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最初のポートへスキップします。

- ※スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに[Num Lock] + [-]等でホットキーモードを起動する必要はありません。
- ※スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用したい場合はスキップモードを終了する必要があります。
- 3.スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

■パソコンのキーボード/マウスのリセット

本製品に接続されたパソコンの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、キーボードとマウスのリセットを行うことができます。この機能を使うと、そのパソコンで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ状態になります。キーボードとマウスのリセットを行う場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[F5]キーを押してください。
※[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを終了し、そのポートに接続されているパソコンでキーボードとマウスが再び使用可能になります。
上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、リセットボタン(P.5参照)を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

■ホットキーによるビーブ音の切替え

ビーブ音(P.30参照)はホットキーを使って有効または無効にすることが可能です。ビーブ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[B]キーを押してください。
※[B]キーを押すと、ビーブ音が有効または無効に切替わり、画面上に1秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が1秒間表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■ホットキーモードの起動キー切替え

ホットキーモード(P.28参照)は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]いずれかを選択することができます。(初期設定は[Num Lock] + [-])

ホットキーモード起動キーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [H]キーを押してください。

※[H]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

■OSDホットキーの切替え

OSDホットキー(P.27参照)は、[Scroll Lock]キー2度押し、または[Ctrl]キー2度押しのいずれかを選択することができます。OSDホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [T]キーを押してください。

※[T]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

■ポートOSの変更

ポートに接続されているパソコンのOSと一致するように本製品側でポートOSを設定することができます。ポートOSを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. 下表から設定変更の対象となるポートに適したOSを選択し、該当するファンクションキーを押してください。

F1	ポートOSをWindowsに設定します。
F2	ポートOSをMacに設定します。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

■デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を本製品にリストアします。(P.30「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [R]キーを押してください。

3. [Enter]キーを押してください。

※[Enter]キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT」というメッセージが3秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

■ビデオダイナシク

モニター情報の再読み込みを行いません。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [D]キーを押してください。

※モニターの抜き差しを行なった場合にも、本製品はモニター情報の読み込みを再実行します。

■マウスエミュレーションコントロール

デフォルトはOFFです。ONにするには以下の操作を行なってください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [M]キーを押してください。

■ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[ポートナンバー] [Enter]	KVM,Audio,USBハブを指定したポートIDのポートに切替えます。
	[ポートナンバー] [K] [Enter]	KVMのみを指定したポートIDのポートに切替えます。
	[ポートナンバー] [U] [Enter]	USBハブのみを指定したポートIDのポートに切替えます。 ※この機能は単体使用時もしくはカスケード1段目の本製品にのみ有効です。
	[A] [Enter]	オートスキャンモードを実行します。
	[A] [秒数] [Enter]	オートスキャンモードを指定した時間間隔(1~255秒)で実行します。
	[B]	ビープ音をONまたはOFFに切替えます。
	[D]	ディスプレイ情報の再読み込みを行いません。
	[Esc] または スペースキー	ホットキーモードを終了します。
	[F1]	ポートOSをWindowsに設定します。
	[F2]	ポートOSをMacに設定します。
	[F5]	現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。
	[H]	ホットキーモード起動キーを[Ctrl] + [F12]または [Num Lock] + [-]に変更します。
	[M]	マウスエミュレーションのON/OFFを切替えます。
	[R] [Enter]	ホットキーの設定を工場出荷状態に戻します。
	[T]	OSDホットキーを[Ctrl]キー2度押し、または [Scroll Lock]キー2度押しに変更します。
	[←]	スキップモードを起動し、現在のポートから1つ前のアクセス可能なポートにスキップします。
[→]	スキップモードを起動し、現在のポートから1つ後のアクセス可能なポートにスキップします。	
[↑]	スキップモードを起動し、1つ前のアクセス可能なポートにスキップします。1つ前のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートになる場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最後のポートへスキップします。	
[↓]	スキップモードを起動し、1つ後のアクセス可能なポートにスキップします。1つ後のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートになる場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最初のポートへスキップします。	

OSD操作

オンスクリーンディスプレイ (OSD) は、マウスやキーボードの操作が可能なメニューで、このメニューを使うことで本製品の諸設定および接続されたパソコンの管理を行うことができます。これらの操作はすべてOSDメインメニューから実行します。

■OSDへのログイン

OSDでは、ログインユーザーのユーザー権限 (アドミニストレーター/ユーザー) に応じたメニューが表示されます。OSDのメイン画面が表示される前に、ログイン画面が表示され、パスワードの入力を求められます。OSDへの初回ログイン時、また、パスワードが設定されていない場合は、[Enter] キーを押してください。この場合、OSDにはアドミニストレーターの権限でログインしますので、パスワード認証を含むすべての機能にアクセスしたり、操作したりすることが可能です。パスワードが設定されている場合は、OSDにログインする際に本製品で有効なユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。

■OSDホットキー

選択したポートを表示している際にOSDメニューを起動したい場合は、[Scroll Lock] キーを2回押すことでOSDメニューを呼び出すことができます。

※OSD表示のホットキーはデフォルトの[Scroll Lock] キーから[Ctrl] キーに変更できます (詳細はP.27「OSD HOTKEY」参照)。[Ctrl] キーの2度押しの際は、2回とも同一[Ctrl] キーを使用するようにしてください (左側を2回、もしくは右側を2回)。

■OSDメイン画面

OSDメニューを起動すると、以下のような画面が表示されます。



※上図は、アドミニストレーターとしてOSDメニューにログインした場合の例です。F4およびF6の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。

※OSDメニューにアクセスすると、前回アクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。

※ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます。(詳細はP.29「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)

※ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるポートIDをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合も同様にポートIDをクリックするか、左カーソルキーを押してツリーを操作します。

■OSDメイン画面の項目

PN	製品上の全KVMポートのポートIDが表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、画面がそのポートに接続されたパソコンに切替わります。
QV	クイックビューポート (P.30「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているパソコンには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたパソコンに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます。(詳細はP.29「EDIT PORT NAMES」参照)

■OSDナビゲーション

- OSD画面を閉じる場合は、OSD画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する[F8]をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- リスト表示を1行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- リスト表示を1ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- これらの実行後は、自動的にメニューは1段階上の状態に戻ります。

※画面の表示をクリックして実行するには、マウスエミュレーションコントロールをONにしてください。

デフォルトはOFFです。ONにするには下記の操作を行ってください。

1. ホットキーモードを起動します。
2. [M]キーを押してください。

■OSDファンクション

OSDファンクションはOSDの設定と操作に使用します。

任意のポートへの直接切替え、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSDの設定等ができます。

OSDファンクションにアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、その機能に対応したファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、[Enter]キーを押してください。
3. [Esc]キーを押すと、1段階上のメニューに戻ります。

※各機能の説明は次ページ以降をご覧ください。

OSD操作 (続き)

●F1:GOTO

画面のF1をクリックするか、[F1]キーを押すと、GOTOメニューを起動します。このGOTO機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポートIDを入力することで、直接ポートを切替えることが可能です。

- ・ポートネームを使用する場合、[1]キーを押した後、ポートネームを入力して[Enter]キーを押してください。
- ・ポートIDを使用する場合、[2]キーを押した後、ポートIDを入力して[Enter]キーを押してください。

※この機能では、ポートネームの一部もしくはポートIDを入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定（詳細は下記「F2:LIST」参照）にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの（P.29「SET ACCESSIBLE PORTS」参照）がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc] キーを押してください。

※画面の表示をクリックして実行するには、マウスエミュレーションコントロールをONにしてください。

デフォルトはOFFです。ONにするには下記の操作を行ってください。以降のOSD操作項目も同様です。

1. ホットキーモードを起動します。
2. [M]キーを押してください。

●F2:LIST

このメニューでは、OSDメイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	機能
ALL	現在ログインしているユーザー自身がアクセスできるポートをすべてリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(P.30参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON (電源ON)	接続されているパソコンの電源がONになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源ON)	クイックビューポート(P.30参照)として選択され、かつ接続されているパソコンの電源がONになっているポートをリストアップします。

選択したいポートをOSD画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

●F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルはKVMスイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。設定を変更される場合は以下の手順で作業してください。

1. 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、[Enter]キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

※画面の表示をクリックして実行するには、マウスエミュレーションコントロールをONにしてください。

デフォルトはOFFです。ONにするには下記の操作を行ってください。以降のOSD操作項目も同様です。

1. ホットキーモードを起動します。
2. [M]キーを押してください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSDメインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のパソコンの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポートID表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上に表示されますが、任意の位置にポートIDを表示することもできます。 マウス、またはカーソルキー、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、[Num Lock]をOFFにしたテンキーの[5]を使ってポートIDの表示位置を決めた後、ダブルクリックするか[Enter]キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID表示時間)	ポート切替えが行われた後、画面にポートIDを表示する時間を設定します。 ・3 SECONDS:3秒間 ・ALWAYS OFF:ポートIDを常に非表示
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID表示モード)	ポートID表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ・PORT NUMBER+PORT NAME:ポートナンバーとポートネーム ・PORT NUMBER:ポート番号のみ ・PORT NAME:ポートネームのみ
SCAN DURATION (スキャン間隔)	オートスキャンモード(P.20参照)で、各ポートに接続されたパソコンの画面を表示する時間を設定します。1～255秒までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。 デフォルトでは5秒間に設定されています。0秒で設定するとスキャン機能を無効にします。

OSD操作 (続き)

●F3:SET (続き)

設定	機能
SCAN-SKIP MODE (スキャン/スキップモード)	スキップモードおよびオートスキャンモード(P.20参照)で、アクセスするパソコンを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ALL:アクセスできるポートすべて(P.29参照) ・QUICK VIEW:アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート(P.30参照)のみ ・POWERED ON(電源ON):アクセス可能かつ接続されているパソコンの電源がONになっているポートのみ ・QUICK VIEW+POWERED ON(QUICK VIEW+電源ON):アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているパソコンの電源がONになっているポートのみ デフォルトではALLに設定されています。 ※注意:クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。(P.30参照)
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。1~30分の時間を入力してから、[Enter]キーを押します。0分で設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がパソコンで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切替えます。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するショートカットキー(P.22参照)を選択できます。 [Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]のいずれかを選択してください。 デフォルトでは[Num Lock] + [-]に設定されています。
OSD LANGUAGE (OSD言語)	OSDメニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ENGLISH:英語 ・GERMAN:ドイツ語 ・日本語 ・簡中:中国語(簡体字) ・繁中:中国語(繁体字) ・SPANISH:スペイン語 ・FRENCH:フランス語 ・RUSSIAN:ロシア語 デフォルトでは日本語に設定されています。

●F4:ADM

F4:ADMはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターはOSDの操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]キーを押してください。項目を選択すると、F4機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter]キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの設定)	この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザー名/パスワードを設定します。アドミニストレーター1名およびユーザー4名のユーザー名およびパスワードの設定が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーまたはアドミニストレーターのうち、1つを選択した後、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)、半角スペースを使用し、1~16文字で入力してください。 ・ユーザー名とパスワードを入力/パスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。 ・既に入力されたユーザー名またはパスワードを消去する場合は、[Backspace]キーを使用してください。入力が完了したら[Enter]キーを押してください。 ※注意:ユーザー名およびパスワードは大文字と小文字を区別しません。 ユーザー名はOSDでは大文字で表示されます。
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセスポートの設定)	アドミニストレーターはこの機能でポート別に各ユーザーのアクセス権限を定義することができます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、スペースキーを押して、以下の項目のうち、お使いの環境に適したものを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・F:フルアクセス ・V:モニターのみ ・(スペース):アクセスNG 全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら[Enter]キーを押してください。デフォルトでは、全てのユーザーが全てのポートに対しF(フルアクセス)に設定されています。 ※注意:ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。 そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。 アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセスの権限を持っています。
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 この機能はオペレータがもうパソコンにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのパソコンにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1~180分までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。0分で設定するとこの機能を無効にします。デフォルトは0(無効)に設定されています。 ※注意:この機能はログインモードの設定が無効(OFF)になっている際には動作しません。 (ログインモードの設定項目参照)
EDIT PORT NAMES (ポート名の設定)	製品に接続されているパソコンの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポート名の設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。ポート名を編集するには以下の手順で作業してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1.編集したいポートをクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])を使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2.新しいポート名を入力するか、以前のポート名を訂正または削除してください。ポート名は、半角英数字(a~z, 0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)を使用し最大12文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません。OSDではポート名はすべて大文字で表示されます。 3.ポート名の編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。

OSD操作 (続き)

●F4:ADM(続き)

設定	機能
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSDメニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(P.22参照)
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	ポートネームの一覧を消去します。
ACTIVATE BEEPER (ビープ音の設定)	ビープ音の設定を行います。Y(有効)または、N(無効)を選んでください。Yを選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.20参照)が有効になっている時、OSDメニューで無効な入力があった時にそれぞれビープ音が鳴ります。デフォルトではY(有効)に設定されています。
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORTの設定)	クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレーターのみ利用できます。 ・クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])でハイライトバーをそのポートに移動させて、スペースキーを押してください。 ・ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目にアイコンが表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、アイコンは表示されません。 ・LISTメニュー(P.26「F2:LIST」参照)でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ・オートスキャン(P.20参照)でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET OPERATING SYSTEM (OSの設定)	本製品に接続されているパソコンのOSの種類を設定します。デフォルトではWIN(PC互換機)に設定されています。 OSの設定は以下の手順で行ってください。 1.一覧から、OSを設定するポートを選択してください。 2.スペースキーを押すと、選択できる項目(WIN、MAC、OTHER)が切替わりますので、お使いのパソコンに適したものを選択してください。 3.選択し終わったら[Esc]キーを押して操作を完了してください。手順2で選択された内容がそのポートに反映されます。
SET KEYBOARD LANGUAGE (KEYBOARD言語)	各ポートに接続されたパソコンで使用するキーボードの言語の設定を行います。スペースキーを押して言語の候補を切替え、該当の言語を選択して[Enter]キーを押してください。以下の言語の選択が可能です。 AUTO:自動 ENGLISH(US):英語(アメリカ) ENGLISH(UK):英語(イギリス) GERMAN(GER.):ドイツ語(ドイツ) GERMAN(SWISS):ドイツ語(スイス) FRENCH:フランス HUNGARIAN:ハンガリー語 ITALIAN:イタリア語 JAPANESE:日本語 KOREAN:韓国語 RUSSIAN:ロシア語 SPANISH:スペイン語 SWEDISH:スウェーデン語 TRADITIONAL CHINESE:中国語(繁体字) デフォルトでは日本語に設定されています。

●F4:ADM(続き)

設定	機能
MOUSE EMULATION (マウスエミュレーション)	マウスエミュレーションのON-OFFの切替を行いません。デフォルトはOFFに設定されています。 ※注:OSDメニュー画面でマウスを使用したい際はマウスエミュレーションをONにしてください。
ACTIVATE MULTI-DISPLAY (マルチビューの有効)	マルチディスプレイモードON-OFF デュアル/トリプル/クアドディスプレイ等複数モニター対応のビデオカード対応のパソコンを切替える為のマルチディスプレイモードを有効にします。(マルチディスプレイ機能項目参照)
SET LOGIN MODE (ログインモードの設定)	アドミニストレーターはこの機能で起動時のログイン画面をON-OFFにすることができます。この設定をOFFにした場合は、本製品の起動時のログイン画面は表示されず、パスワードも要求されません。アドミニストレーターのみが操作できる機能を含む全ての操作が有効となります。

●F5:SKP

画面のF5の項目をクリックするか、[F5]キーを押すとスキップモードを起動します。この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なパソコンのポートに簡単にスキップすることができます。

・スキップモード切替えが利用できるパソコンの選択は、F3:SETの機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(P.28参照)

スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。
↑	1つ前のアクセス可能なポートにスキップします。1つ前のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートになる場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最後のポートへスキップします。
↓	1つ後のアクセス可能なポートにスキップします。1つ後のアクセス可能なポートがカスケードされた機器側のポートである場合はそちらの機器上でアクセス可能な一番最初のポートへスキップします。

※スキップする際は、スキャン/スキップモード(P.28参照)の選択できる前後のパソコンにしかスキップできません。

- ・ポートがスキャン / スキップモードで選択されている場合、上下左右の三角印(▲▼◀▶)が選択されたポートIDの前に表示されます。三角マーク表示中、背景は黒画面になります。
- ・スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ・スキップモードを終了する際には、スペースキー、または [Esc] キーを押してください。

OSD操作 (続き)

●F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面のF6の項目をクリックするか、[F6]キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、本製品上の利用可能なポートに一斉送信することができます。これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のパソコンで同じ操作を行う必要があるユーザーに特に便利な機能です。

- ・BRCモードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。スピーカーマーク表示中は画面の背景は黒画面になります。
- ・BRCモードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合はBRCモードを終了する必要があります。
- ・BRCモードを終了するには、OSDメニューをOSD起動用ホットキーで起動し、F6のフィールドをクリックするか、[F6]キーを押してください。
- ・BRCモードが有効な場合Scroll Lock LEDが点滅します。BRCモードを終了すると通常の状態に戻ります。

●F7:SCAN

画面のF7の項目をクリックするか、[F7]キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手でポート切替えを行うことなく、稼働中のパソコンを一定の間隔で自動的に切替えて、監視することができます。

- ・オートスキャン時に表示するパソコンは、スキャンモード設定の「F3:SET」(P.28参照)のメニューで選択します。
- ・各ポートを表示する時間間隔の設定は、「F3:SET」の「SCAN DURATION」(P.27参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合はスペースキーを押してください。
- ・KVMスイッチが、パソコンが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないパソコンが接続されているポートを選択すると、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ・オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポートIDの前に[S]マークが表示されています。[S]マーク表示中の背景は黒画面です。
- ・オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、スペースキーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ・オートスキャンの実行中に任意のポートで表示を一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくは左クリックしてください。詳細についてはP.20「オートスキャンモードの起動」をご参照ください。
- ・オートスキャンモードを終了する場合は、スペースキーもしくは[Esc]キーを押してください。

●F8:LOUT

画面のF8の項目をクリックするか、[F8]キーを押すとOSDメニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。これはOSDメインメニューを表示している間に[Esc]キーを押し、OSDを閉じる操作とは異なります。[Esc]キーを押した場合は、ログアウトせずOSDメニューを閉じただけです。OSDホットキーを押せば再度OSDメニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うとOSDからログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

※注意

- ・OSDからログアウト後に再びOSDを表示すると、OSDメインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
- ・ログアウト後に再びKVMスイッチへログインしてOSDを表示し、メニューからポートを選択しない状態で[Esc]キーでOSDを閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面にはNull Port無効ポートメッセージが表示されます。このときOSD起動ホットキーによってOSD画面を表示することができます。

Macキーボードエミュレーション

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC互換キーボードからMacシステムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC互換キーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1] ※	
[Ctrl] [2] ※	
[Ctrl] [3] ※	
[Ctrl] [4] ※	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

※ [Ctrl] キーを押してすぐに離し、その後フルキー側の数字キー [1] ~ [4] を押して離してください。

■アドミニストレーター権限のログインができなくなってしまう場合

ユーザーネーム/パスワード情報が毀損してしまった、もしくは忘れてしまった等の理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなってしまう場合は、下記の方法でリセットすることができます。

※この作業にはジャンパキャップが必要です。作業を開始する前にご用意ください。

1. ACアダプタを抜き本体のカバーを取外します。
2. 基板上にあるJ29ジャンパピンにジャンパキャップをかぶせてください。
3. ACアダプタを接続して電源を入れてください。
4. フロントパネルのLEDが点滅したのを確認し、ACアダプタを再度抜いてください。
5. J29からジャンパキャップを取外してください。
6. 本体のカバーを取付けてください。

この操作をすると、デフォルトのログイン方法でログインできるようになります。

品番	SW-KVM8HU	
対応パソコン	Windows搭載(DOS/V) パソコン、Apple Macシリーズ (USB Aコネクタ メス、HDMI出力を持つ機種※1)	
対応キーボード	USBキーボード ※1、※2、※3、※4	
対応マウス	USBマウス ※3	
対応ディスプレイ	HDMI入力端子を標準搭載しているテレビ・パソコン用ディスプレイ	
対応解像度	最大解像度1920×1200 (WUXGA)、1920×1080 (フルHD) まで表示可能	
対応スピーカー	3.5mmステレオミニプラグ対応スピーカー ※音声出力設定をHDMI Audioにしている場合はアナログ音声出力はできません。別途設定変更が必要です。	
対応OS	Windows 10・8.1・8・7・Vista・XP(32/64bit,各Edition対応) Windows Server 2019、2016、2012 (R2)、Windows Server2008(R2)、Windows Server 2003 (R2) macOS 10.12~10.15、Mac OS X 10.6~10.11 Linux(CentOS, uBuntu, OpenSUSE)	
インターフェース	<パソコン用> ディスプレイ/HDMI(タイプA)メス×8 キーボード・マウス・USB2.0ハブ/USB Bコネクタメス×8 スピーカー/3.5mmステレオミニジャック×8	<コンソール側> ディスプレイ/HDMI(タイプA)メス×1 キーボード/USB Aコネクタメス×1 マウス/USB Aコネクタメス×1 スピーカー/3.5mmステレオミニジャック×2 USB2.0ハブ/USB Aコネクタメス×2
切替方式	本体ボタン切替、ホットキー切替、OSD切替、オートスキャン切替	
切替音	ピープ音ON・OFF設定可能	
電源	ACアダプタ (DC5V 4A)	
消費電力	8.56W	
動作時温度・湿度	0~50℃ 湿度80%以下 (結露なきこと)	
保存時温度・湿度	-20℃~60℃ 湿度80%以下 (結露なきこと)	
サイズ・重量	W433×D258×H44mm	
付属品	ACアダプタ(DC5V 4A)×1、電源ケーブル×1 パソコン接続用ケーブル (1.8m) ×2 ラックマウントキット (ブラケット×2、ネジ×6) グラウンド線 (接地線) ×1 ゴム足×4 ラック固定用ネジ×4、ラック固定用ナット×4、ラック固定用ワッシャー×4 取扱説明書(保証書付き) ×1	

注意

- ※1: キーボードに搭載されているUSBハブポートは本製品経由では使用することはできません。
キーボードに搭載されている特殊ボタンなどドライバーを要する機能についても本製品経由では使用することができません。
- ※2: 指紋認証機能付キーボード、トラックパッド付キーボードなどでは動作しないことがあります。
- ※3: Bluetoothキーボード・Bluetoothマウスには非対応です。
- ※4: ゲーミングキーボードなどのNキーロールオーバー機能を搭載したキーボードは動作対応しません。

ご注意

- 本製品はACアダプタの接続が必須です。未接続状態では動作しません。
- すべてのパソコン・キーボード・マウスの動作を保証するものではありません。
- キーボード、マウスにおいてドライバーのインストールを要する特殊なボタン、ファンクションキーについては本切替器経由では動作しないことがあります。
- ワンタッチボタンによるレジューム・サスペンド機能は対応していません。
- 本製品は国内仕様となっており、海外での動作保証、サポートは行っていません。
- この文書中に表記されるその他すべての製品名などは、それぞれのメーカーの登録商標、商標です。